

在宅医療介護連携のための研修会アンケート結果

テーマ：エンドオブライフケア研修会

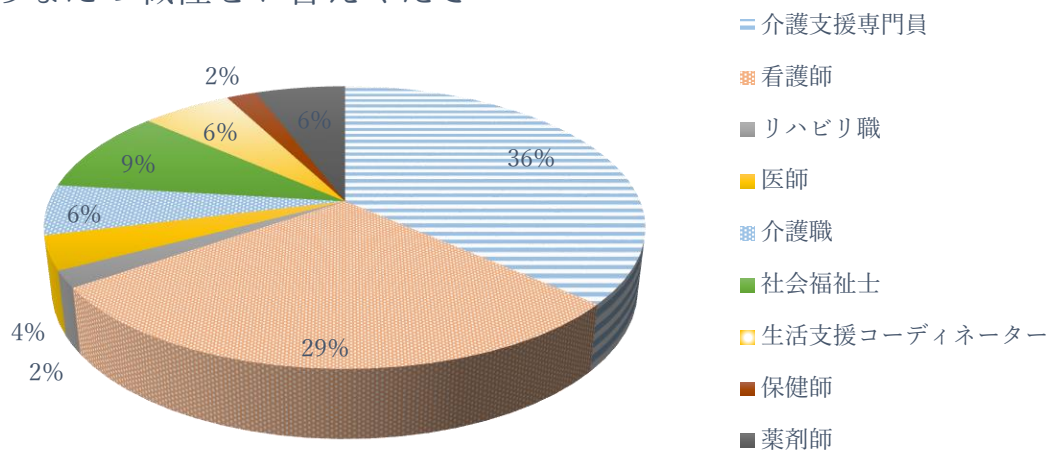
主 催：医師会部会

開催日：令和 3 年 7 月 17 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 5 時

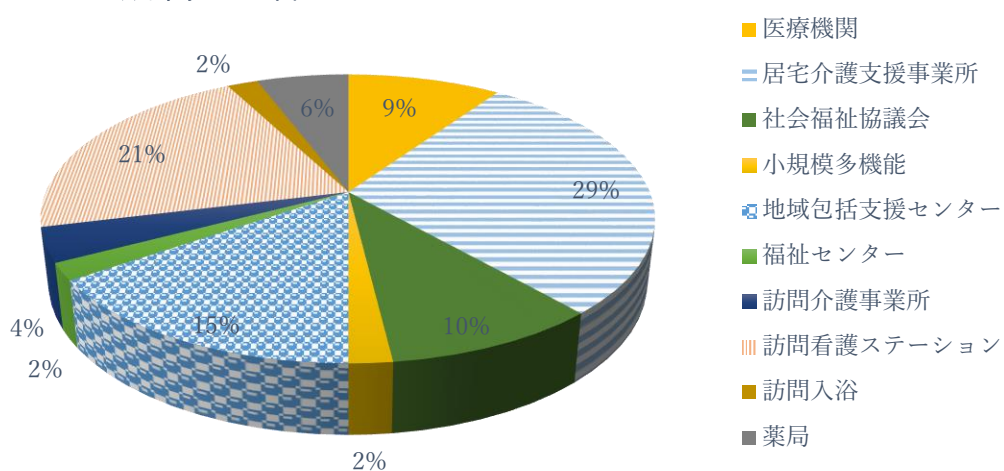
参加者：65 名

回答者：52 名 回答率：80%

1.あなたの職種をお答えください

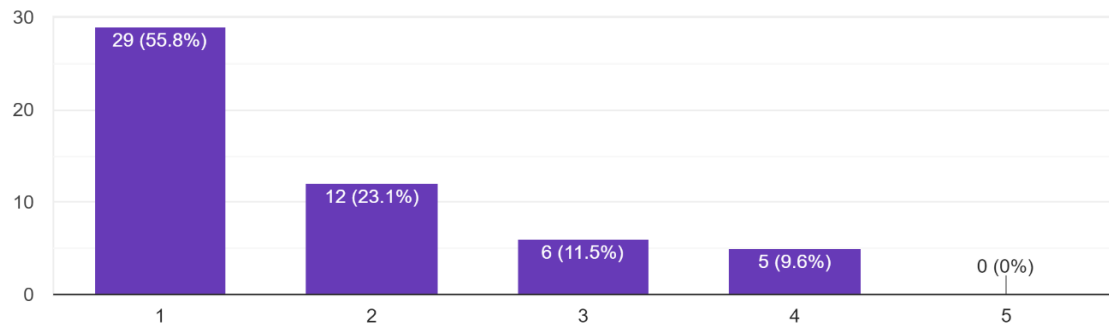


2.あなたの所属をお答えください



3.研修内容の分かりやすさについてお答えください

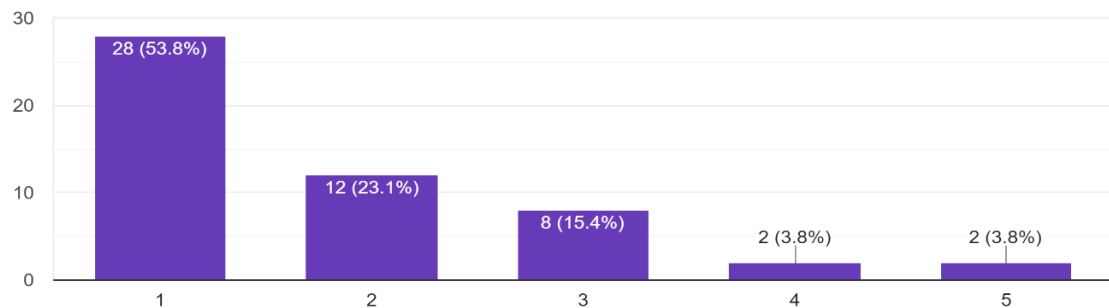
52 件の回答



【内訳】 1.分かりやすい 29 名（55.8%） 2.やや分かりやすい 12 名（23.1%） 3.普通 6 名（11.5%） 4.やや分かりにくい 5 名（9.6%） 5.分かりにくい 0 名（0%）

4.この研修に対する満足度についてお答えください

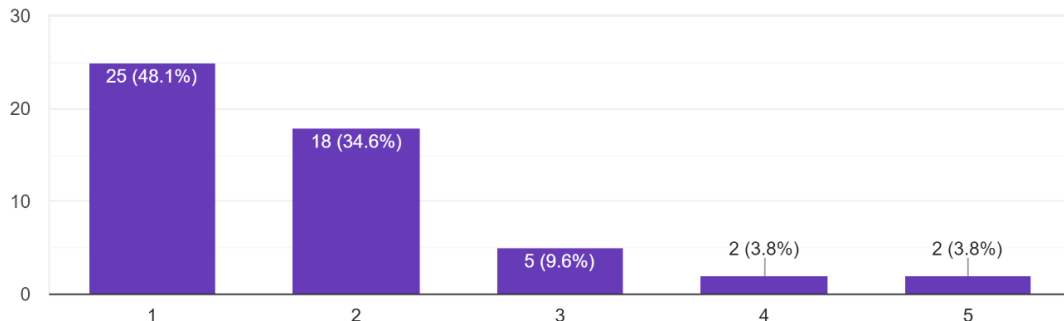
52 件の回答



【内訳】 1.満足 28 名（53.8%） 2.やや満足 12 名(23.1%) 3.普通 8 名（15.4%） 4.やや不満足 2 名（3.8%） 5.不満 2 名（3.8%）

5. 今後に活用できそうですか

52 件の回答



【内訳】 活かせる 25 名（48.1%） やや活かせる 18 名（34.6%） 普通 5 名（9.6%） あまり活かせない 2 名（3.8%） 活かせない 2 名（3.8%）

6. 問 5 で「活かせる」「やや活かせる」と答えた方に質問です。どんな内容が活用出来そうですか

- ACP について
- 他職種との話し合いの仕方
- 反復と沈黙を実践してみたい
- 本人や家族が意思決定を判断できるように支援すること
- 相手気持ちが整うまで、こちらから反応するのを待つという「積極的な沈黙」はやってみようと思います
- 住民へ ACP を周知させていく中でまずは自分自身が知ることができたことはとてもよかったです。
- 自分の職種と違う役を行うことで、その人の気持ちが理解できたことは、とても活かせると感じた。
- 多職種連携の大切さが再認識できた
- 「患者と医療従事者・支援者は対等な立場ではない、圧倒的な情報格差がある」とのことで、ハッとさせられました。患者側の気持ちに立って支援やコミュニケーションを取っていかないといけないと思った。
- 意思決定の段階を踏まえた関わり
- 意思表明の場の設定（本音を言える環境づくり）
- IC の限界 ACP と事前指示の違い
- 協働意思決定を意識すること

- 「いつ、誰と、何を考えるのか」という視点。ACP と聞くと病院主体のようなイメージがあったが、元気なとき、地域住民も関われる部分があるんだと感じた。
- 意思決定におけるコミュニケーションで、本人の気持ちを理解して、気持ちが変わることもあることを理解する。
- 協働意思決定のプロセスは相談支援のどのような場面でも必要なことと思います。
- 様々な職種の立場の意見を患者さんに聞いてもらうことで患者さんの意思が変化する可能性があることが理解できた。従ってこのためにはまず、予め患者の価値観などの情報を聞き出すことが大変重要であり、その上で専門家として必要な情報提供ができたらと思った。
- 実際のロールプレイを見る中で、答えを求める発言をしてしまうことや、沈黙に対する抵抗感などの改善が出来るように、コミュニケーションスキルを活かしていきたいと思った。

7. 今後開催して欲しい研修内容をお書きください

- コミュニケーションスキルの学習
- 協働意思決定のケーススタディ
- 社会福祉制度の活用研修、事例発表
- 入退院時の多職種連携
- 今回のような意思形成支援に関する研修は繰り返し定期的にあるとうれしいです。
- 在宅介護支援の事例の検討
- 医療と在宅介護連携ができるチーム作り
- 認知症の方の意思決定について
- 倫理的ジレンマがあるケースの支援について
- ACP についての続編 事例検討を多職種でしたいと思います
- ALS など神経難病の意思決定支援について
- 入院中、退院後の情報共有について